

島の秋

延岡市立島野浦小学校 荒木崇之

この広い宇宙の
日本という国で
まあまあ地方の
いやだいぶ地方の
孤島で生まれた
それってキセキ…
というよりかむしろ…
実は選ばれしものじゃないのか!?
(カタノトモコ『わたし、孤島そだち』)

そこは宮崎県延岡市の浦城港から船で 10～20 分のところに浮かぶ島浦島*で、その孤島の小学校に私は勤務しています。山間部にへき地が多い宮崎県で唯一離島のへき地です。カタノトモコさんは現在、大阪在住のイラストレーターです。

島浦島は人口は約 800 人、面積は約 3 km²、周囲は約 15 km の島です。漁業が盛んで港から学校までの道に多くの漁船が係留されています。ガードレールがなく、風が強い日は小学生が風にあおられて海に落ちこちはしないかと、心配になります。

島内には小学校と中学校があり、小学校は島の北西部にあります。現在 23 名の児童が学んでいます。校舎は児童が 150 名もいた昭和 40 年築でかなり老朽化しています。昨日は大雨で私は後ろでバケツに落ちる雨漏りの音を聞きながら仕事をしていました。

島の四季を振り返ると、印象深いのは秋です。

まずは小中合同運動会。海岸に近い漁協広場に多くの大漁旗が掲げられます。保護者だけでなく、島中の人々が児童・生徒に声援を送り、競技にも参加します。運動会が年に一度の晴れ舞台という島の人もいることでしょう。まさに「島の大会」です。

そして、秋風に乗ってどこからともなくお囃子の稽古が聞こえてくると今度は島野浦神社の大祭です。前夜祭「よどん晩」では普段は見られない船のライトアップや夜神楽の奉納があります。

祭の日のメインは神輿合戦です。海上を御幸した神輿が神社に帰還しようとするところを鳥居の下で太鼓台が待ち構えています。担がれた太鼓台の屋根の花笠を奪って帰ろうと神輿が激しく体当たりすると、「まだ神様に帰ってもらって困る」と太鼓台の方もぶつかって阻止しようとしめます。この激しいぶつかり合いの間、「チョイヤサー」「エーコン」の掛け声が島中に響き渡り、太鼓台の子供達は大きく揺れる中で太鼓を叩き続けます。神輿が花笠を奪い、神社に帰還すると祭りは終わりです。

島野浦小学校はトンネルの先の中学校の方へ移転する計画が持ち上がっています。この校舎から子供の声が消える日は、そう遠くないのかもしれない。県内では毎年、数校が閉校しています。子供の声が聞こえなくなった学校の前を通ると切なくなります。

書いているうちに、この孤島に赴任した私も「選ばれしものじゃ

ないか!？」という気がしてきました。昨日来の雨は小降りになってきました。夕方には晴れてきそうです。今日は高台にある神社を詣でて、海を眺めてから帰ろうと思います。

*現在の行政区分では島名は「島浦島」、地区名は「島浦町」です。神社や学校名は「島野浦」となっています。

(参考文献) カタノトモコ『わたし、孤島そだち』アスキー・メディアワークス 2012年